

第2回塩竈市総合教育会議 概要報告

1. 日 時 平成29年12月1日(金)
開会 16時00分 閉会 17時30分

2. 会 場

3. 出席者 塩竈市長 佐藤 昭
塩竈市教育委員会
教育長 高橋 睦麿
教育長職務代理者 柴田 仁市郎
委員 太田 忍
委員 池野 暢子
委員 佐浦 弘一

第一中学校 教頭 白井 英利
第二中学校 教諭 佐藤 拓也

(事務局)

市民総務部長	小山 浩幸
教育部長	阿部 光浩
教育部教育総務課長	本田 幹枝
教育部学校教育課長	遠山 勝治
教育部学校教育課副参事	穴戸 雅治
教育部生涯学習課長	伊藤 英史
教育部市民交流センター館長	伊東 英二
教育部教育総務課総務係長	菊池 亮
教育部教育総務課総務係主事	工藤 貴裕

4. 協議事項 議題1 塩竈独自の小中一貫教育のこれまでの取組と来年度の取組について
議題2 不登校・いじめ対策について
① 不登校改善に向けて
② 事例紹介

5. 報告事項 報告1 塩竈アフタースクール事業（わくわく遊び隊）について

6. 概要

- 開会
- 佐藤市長あいさつ
- 出席者紹介
- 協議事項

議題1 塩竈独自の小中一貫教育のこれまでの取組と来年度の取組について

（発表者：教育部学校教育課長 遠山 勝治）

塩竈独自の小中一貫教育の取組状況について、アンケートの調査結果を含め報告し、意見交換を行った。

【主な意見】

〈太田委員〉 只今の報告を受けて、地域と家庭と学校の三者が一体となって子供達を教育していかなければならないと痛切に感じた。私も現実を見ると、家庭教育の崩壊が、不登校や勉強が分からないとか、荒んだ気持ちになっている子供達が増えている要因となっていると感じる。一番は子供達が可哀そうだと思うので、小中一貫教育の中で、しっかりと勉強がわかるようにしてあげて、家庭に帰った時に、お父さんお母さんに褒められるというような体験をさせてあげる等、家庭と学校が一つになった教育をしていかなければ救えないと感じた。

〈佐藤市長〉 太田委員より教育というものは学校だけでなく、家庭、さらには地域が一体となった問題解決への取組が大切だとの意見をいただいた。教育委員会として、今後の家庭教育に関しての取組について意見ををお願いします。

〈遠山学校教育課長〉 これまでも教育委員会として様々な取組を実施してきたが、家庭教育や地域での教育の機能が低下していることについて、一気に元に戻すことは難しいと考えている。子供達が長く居る学校の中で、家庭が持っていた機能、地域が持っていた機能を賄えないかということで、小中一貫教育を進めているところである。

〈池野委員〉 小児科を受診される子供達のご両親方の意識が昔と違ってきていると感じる。例えば、昨日から高熱が出ている子供を朝連れて来るのではなく、病院が空いているからという理由で夕方連れて来たりする。子供の具合が悪いという辛さをどう捉えているのか疑問に思うことがある。待合室でもスマートフォンを子供に預けて遊ばせていたり、子供が待合室で走り回ろうが何をしようが、自分がスマートフォンを使っていて注意もしない。そうした状況を見ると、家庭教育について心配になることがある。そうした意味で、小中一貫教育には期待している。アンケート調査の中で、自分の学年と違う学年の人たちを学習するのが楽しみだと答えた児童生徒が多かったが、昔はそうした交流が自然とあったが、今はそうした交流が無くなっているため、非常に良い取組だと感じた。

〈佐藤市長〉 昔は町内会単位で行事等がありそうした交流が自然とあったが、今はそうした行事等も無くなっている。佐浦委員に保護者としての意見を伺いたい。

〈佐浦委員〉 親と地域との関わり方については、色々な社会環境の変化によって難しい部分もある。また、昔と比べて人口が減っているので、地域という括り方が広範囲になっているということもあろうかと思う。全体として、地域の活動に関わりづらくなっているため、子供達が地域の大人と関わる機会も減っているように思う。その社会性を育む環境を補う意味でも小中一貫教育に取り組んでほしい。ただ、小中一貫教育についての教職員対象のアンケート調査結果について、義務教育 9 年間で接続し教育活動を行うことは効果的かという問いには、9 割の教職員の方がそう思う・どちらかといえばそう思うと回答しているのに対し、小中一貫教育のキーワードである活躍と交流で教育活動を見直したとき教育の質の向上は図れると思うかとの問いには、8 割の教職員の方がそう思う・どちらかといえばそう思うと回答している。この回答の差が何か気になる場所である。

〈佐藤市長〉 教職員の方の 2 割程度が、小中一貫教育のキーワードである活躍と交流で教育活動を見直したとき教育の質の向上は図れると思うかとの問いに対して、どちらかといえばそう思わない・そう思わないと回答していることについて、教育委員会としてどのように考えているのか。

〈遠山学校教育課長〉 小中一貫教育を今後更に取り組んで行くためには、教職員の意識改革が重要であると考えている。実際に小中一貫教育に関して、視察に行った教員は、必死になって授業作りに励んでいるが、視察に行っていない教員は、まだどのような授業をして良いのかイメージが出来ていないということが、アンケート調査の結果に繋がっていると考えている。教育委員会として、今後具体例を示しながら教職員の意識改革に努めていきたい。

〈柴田委員〉 牛久市と入間市に小中一貫教育について視察に行ったが、教育の技術的なものについては、改革が進んできているように感じた。ただ最終的には、教師の教師力というか、教師の人間力が大切だと感じている。そうしたものを高めていかなければ、素晴らし教育技術があっても、それが上手く伝わらなければ室の持ち腐れになるだろうと思う。子供達の家庭環境や社会環境は一朝一夕に変わるものではないので、教育の力によって、家庭教育や地域教育の機能が低下している部分を補って行ってほしいと感じている。

〈佐藤市長〉 塩竈独自の小中一貫教育について、目標を明確に示しながら進めていく必要があると感じている。教育委員会として、目標や指標を作りながら小中一貫教育を進めていきたい。

〈高橋教育長〉 まずは、この小中一貫教育の体制をきちんと整える目標としては平成 32 年を目標としている。またその後については、学力の数値目標だけでなく、子供達の満足度というものを加味しながら考えていきたい。

議題 2 不登校・いじめ対策について

① 不登校改善に向けて

(発表者：第一中学校 教頭 白井 英利)

① 事例紹介

(発表者：第二中学校 教諭 佐藤 拓也)

玉川中学校及び第一中学校での不登校改善に向けた取組や、いじめ問題が解決に至

った事例について報告し、意見交換を行った。

【主な意見】

- 〈柴田委員〉 数年前は、塩竈市が不登校児童生徒数県内ワースト1であったが、ここ数年間の様々な取組の効果が表れてきて、胸を張ってこれだけの改善をしてきたと言える状況になったと思う。白井教頭や佐藤教諭の報告を聞いて、これだけの取組をしていれば、必ず結果として表れるだろうと感じた。改めて、現場の先生方に対して敬意を表したいと思う。先程の白井教頭の話の中で、愛の反対は無関心であるという言葉が非常に心に残った。誰か自分に対して関心を持っていてくれる大人がいれば、子供達は決して非行に走ることは無いだろうと感じた。教師の力、人間力が充実した人が子供達に関わっていただければ、こうした問題は解決していけようと思っているので、是非これからもよろしくお願ひしたいと感じた。
- 〈佐藤市長〉 学校の現場で日夜大変なご苦勞をいただいている先生方と、我々も一緒になって頑張っていかななくてはならないと感じた。こうした事例を色々な人に伝えていくことによって、今度は予防というものになるかと思う。今後もこのような取組を続けていただきたい。

○報告事項

報告1 塩竈アフタースクール事業（わくわく遊び隊）について

（発表者：教育部生涯学習課長 伊藤 英史）

塩竈アフタースクール事業（わくわく遊び隊）の取組状況等について報告を行った。

○閉会